

自由討論

講演会のあと、川口桂三郎先生の司会によつて、約2時間にわたつて自由討論が行なわれた。

はじめに、無機系および有機系の土壌改良剤メーカー10社から製品の紹介をしていただいた。

つづいて大学、農試の関係者から発言をたまわつたが、その概要はつぎのとおりでした。なお、記録は、速記をとらなかつたため、要点と思われるところを整理編集したものです。また本文中の土壌改良剤とは合成高分子系改良剤を意味するものと判断いたしました。(文責 喜田大三)

川口(京大農学部)：改良剤使用の経験談、改良剤への希望などに対する御発言をお願いします。まず園芸作物に対する御経験をお持ちの中原先生をお願いします。

中原(千葉大園芸学部)：果樹園土壌の侵食防止に信越化学のソイソックを使用して良好な結果を得ています。本日の討論会で各種の改良剤が紹介されましたから、今後これら改良剤についても実験したいと考えています。

川口：合成高分子系改良剤が土壌微生物によつて分解されるか否かは改良剤使用上重要な問題の一つです。従来、合成高分子を分解する微生物はいないといわれてきましたが、最近京大化学研究所の山本教授は合成高分子を食う微生物が存在するという興味ある研究を報告されています。しかし私は高分子を食うという問題は実際の土壌中ではそう心配した問題ではないと思いますが、山本先生に御意見ををお願いします。

山本(京大化研)：土壌を含まない実験法によつて、水溶性PVA(ポリビニルアルコール)を唯一の炭素源とする微生物のいることを知りました。土壌中に改良剤としてPVAを入れた場合にも、PVAは微生物によつて分解されるのではないかと推察されます。しかしさきほど川口先生が御指摘されたように、現実の土壌中では微生物による高分子の分解はさして心配する必要はないと考えます。

川口：土壌改良剤について早くから研究されている東久保先生に御意見ををお願いします。

東久保(京大教養部)：土壌改良剤の使用にあたって、根本的に重要な問題は、改良剤によつてただちに増収すると考えてはならないということです。いいかえれば、改良剤による土壌の物理性改良はすべてのはじまりであり、この改良された土壌に適應した栽培技術が結びつけられなければならないと思います。たとえば、改良剤による土壌保水力の増大も畑地灌漑と直結して、はじめにその効果を大いに発揮することができるわけです。かゝる見地から今後の開発を望む次第です。

川口：経験の豊かな青木先生の御意見ををお願いします。

青木(京都工繊大繊維学部)：今後日本農業において土壌改良剤がどれだけのびるか、また現在は高価につきが技術的にどの程度までコストダウンできるか、関係者から御説明をお願いします。

川口：この場で具体的な説明はむづかしいと思います。ただ、できるかどうかということではなくして、これは是非ともやらなければならない課題だと思います。

つぎに三重大学の位田先生に御発言をお願いします。

位田(三重大学農学部)：そ菜栽培の立場からみれば、土壌通気性の必要度は作物の種類および生育の時期などによつて違つています。したがつて、改良剤の使用もこのような作物の栄養生理面からも検討されなければならないと思います。

川口：その他御意見はございませんか。最後に朝からこの討論会をお聞きいただいた北大の石塚先

生の御感想をお願いします。

石塚(北大農学部):さきほど、東久保さんがおっしゃったように、土壌改良剤は土壌の条件をかえるものであつて、増収とは別問題であると思います。多くの人はsoil conditioner と増収とを一次函数的に結びつけておられるようですが、これでは改良剤の発展は望めないと思います。また多くの人々からsoil conditionerはのびるでしょうかと問われますが、その答にとまどう次第です。ただ、私は今後の日本農業は改良剤を使用する方向に発展していくと思います。

現在の改良剤は高価であり、あたかもデオールの衣装のようなもので、一般農家のお嬢さんには買えません。メーカーに要望したい点ですが、販売のみを急ぐことなく、農家の娘さんが着られるデザインのものをできるだけ安く作っていただきたいと思います。一方、日本農業の技術もこれら改良剤を使いこなせるように進歩させなければならないと思います。

川口:なおいろいろ御意見もあろうかと思いますが、このあたりで討論会を終らせていただきます。

討論会後記

昭和37年11月14日(水)晴天あたたかい。会場(京都大学楽友会館講堂)には午前8時半頃に第1番の参加者があられ、午前10時の開会時には講堂の椅子150はふさがつてしまつて、あわてて椅子を追加するといった次第であり、会場は満員でした。そして参加者名簿から討論会参加者200余名という、まったく予想外の盛会でありました。先着会員120名に進呈するため用意しておいた土壌改良剤のカタログ集はまたたく間になくなり、約半数の参加者へカタログ集を進呈することができず、世話役一同深くおわび申し上げます。

富士岡義一先生の開会の辞にはじまつて、諸先生の講演が行なわれ、自由討論にはいりました。討論時間がすくなくて残念でしたが、川口桂三郎会長から閉会の辞をたまわり、午後4時30分盛況のうちに討論会を終了いたしました。このあと、午後5時から紅葉たけなわの嵯峨天龍寺の“花の家”で懇親会がもたれました。

終りに有意義な御講演をお引き受け下さいました諸先生方、ならびに本討論会にあれこれ御援助をいただきましたメーカー各位に厚くお礼を申しあげると共に、討論会に御参加して下さつた諸氏、色々と準備、世話をして下さいました各位に謝意を表します。(事務局)